



## 2023年9月期 第2四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2023年4月27日

上場会社名 株式会社 ステップ

上場取引所 東

コード番号 9795 URL <https://www.stepnet.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 遠藤 陽介

問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員 (氏名) 新井 規彰 TEL 0466-20-8000

四半期報告書提出予定日 2023年5月9日 配当支払開始予定日 2023年5月15日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年9月期第2四半期の業績(2022年10月1日～2023年3月31日)

#### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年9月期第2四半期	7,520	10.0	2,285	13.2	2,311	11.9	1,592	11.8
2022年9月期第2四半期	6,838	8.4	2,018	18.2	2,065	18.1	1,423	18.2

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年9月期第2四半期	95.92	
2022年9月期第2四半期	86.27	

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年9月期第2四半期	28,740	26,050	90.6	1,567.84
2022年9月期	27,573	24,798	89.9	1,494.56

(参考)自己資本 2023年9月期第2四半期 26,050百万円 2022年9月期 24,798百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年9月期		23.00		23.00	46.00
2023年9月期		24.00			
2023年9月期(予想)				24.00	48.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2023年9月期の業績予想(2022年10月1日～2023年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	14,456	5.9	3,862	5.6	3,900	4.6	2,668	4.1	160.79

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年9月期2Q	16,670,000 株	2022年9月期	16,670,000 株
期末自己株式数	2023年9月期2Q	54,522 株	2022年9月期	77,422 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年9月期2Q	16,602,400 株	2022年9月期2Q	16,505,359 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	7
第2四半期累計期間	7
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9
3. 補足情報	9
(1) 生産実績及び受注実績	9
(2) 販売実績	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当事業年度の第2四半期(1~3月)では、中学3年生・高校3年生が入試に挑みました。また生徒募集においては、新年度入会生が集中する時期にあたります。

まず今春の小中学生部門の入試実績は大変好調でした。神奈川県公立トップ高校に2,499名(前年比104名増)が合格し、今春も神奈川県全塾中トップの実績を残しました。これによって県内公立高校に合格したステップ生の42.8%(前年比±0%)がトップ校に合格したことになります。内訳を見ると、県内公立最難関校である横浜翠嵐高校・湘南高校をはじめ、県内公立トップ校19校のうち17校において、また現制度を特徴づける特色検査(筆記型)を実施した19校のうち17校において、塾別の合格者数で当社が第1位となり、今春も他塾を圧倒する結果となりました。

神奈川県立の学力向上進学重点校5校(横浜翠嵐・湘南・柏陽・川和・厚木)においても、すべての高校で全塾中トップとなっており、合計で949名(前年比49名増、合格者計1,756名の54.0%)が合格し、他塾の3倍以上の合格者数となっています。さらに合格率の面でも、この5校全体でステップ生は受験者の82.9%が合格しており、ステップ生以外の合格率60.4%を大きく上回りました(県教育委員会発表の資料から算出)。

また、ステップ生の通学圏内で最難関の共学校である国立東京学芸大附属高校についても、合格者数は192名(帰国生と内部進学を除く。正規合格者132名は同総数266名のうち49.6%)に達し、15年連続で全塾中トップの合格者を出しています。

高校生部門の今春の大学合格実績は、東京大8名・京大4名・一橋大11名・東京工業大22名の現役合格者(45名中42名が神奈川県の公立高校生)を出すことができました。国公立大学の医学部医学科にも5名が現役合格し、国公立大学全体の合格者は過去最高だった前年(307名)を上回る324名(前年比17名増)となりました。また、私立大学においては早稲田大・慶應義塾大・上智大は計459名(前年468名から9名減)、理大MARCH(東京理科大・明治大・青山学院大・立教大・中央大・法政大)は過去最高の計1,992名(前年1,958名から34名増)となっています。

当社の大学合格実績の特長として、上記の実績のほとんどが神奈川県の公立高校生によるものである点が挙げられます。公立高校は、首都圏においては進学実績で私立高校に押されがちとされていますが、受験に向けた態勢をしつかりとれば、第一志望への現役合格に向け公立高校生を大いに伸ばせるということ、今春も数字として示せたことは大きな意義があると考えています。

そして「部活動や学校行事等を含む多面的な高校生活を充実させながら、同時に志望大学への現役合格も実現させたい」という高校生のニーズに応えられる体制の強化を引き続き進めています。神奈川県では、いわゆる大手予備校の校舎閉鎖が続いている状況ですが、当社は今後も教務内容の一層の充実に取り組み、公立高校生を中心とした県下有数のライブ塾としての地歩をより強固なものにしてまいります。

学童部門は、横浜市初のSTEPキッズとして、STEPキッズ白楽教室(横浜市神奈川区)を3月20日に開校しました。豊富で多彩なコンテンツに磨きをかけながら、各教室で運営ノウハウの蓄積・共有をさらに進め、今後の県内各地への展開に向けた基盤づくりを進めてまいります。また、STEPキッズ湘南教室(藤沢市)の分教室(STEPキッズ湘南教室北口館)が3月末から開校しました。学童部門で最初に開校した湘南教室では、新小1の申し込みが早々に定員に達したため、分教室として近隣のステップジュニアラボの一部を使用するものです。

当事業年度中の新規開校については、小中学生部門で4スクール、学童部門で1スクールを3月に開校いたしました。小中学生部門は、川崎市と横浜市にそれぞれ2スクールずつの開校です。川崎市は溝の口スクール(東急田園都市線溝の口駅、JR南武線武蔵溝ノ口駅)とHi-STEP武蔵小杉スクール(東急東横線・JR線武蔵小杉駅)の2校です。前期開校の武蔵新城スクール・武蔵中原スクールとあわせ、高津区・中原区のJR南武線沿線へのスクール網が拡大します。横浜市の鶴見スクール(JR京浜東北線鶴見駅)は横浜市鶴見区で初、井土ヶ谷スクール(京浜急行線井土ヶ谷駅)は横浜市南区で2校目(Hi-STEPを除くと初)の開校となります。上記4校ともこれからドミナント展開を進めていくエリアであり、「学習塾ステップ」のスタンスが地域に伝わり、教務力で評価されるトップブランドとして認知されるよう努力してまいります。

また、川崎市内のスクールが増え、集まった生徒の学力向上に全力をあげることで、合格実績もそれにそって伸長していくものと予想しています。中でも、川崎地区で人気のトップ校である多摩高校の合格実績において、数年以内にステップがナンバー1となれるよう、努力を重ねてまいります。

学童部門では、前述の通り、STEPキッズの4教室目となるSTEPキッズ白楽教室(東急東横線白楽駅)を開校しました。これまでの3教室のノウハウを活かし、初年度から小1~小4の4学年を募集しています。

既存校においては、満員により入会をお受けできていない校舎を中心に、クラス増設、増床、移転等の検討を引き続き進めていく予定です。3月にはHi-STEP湘南スクール(藤沢市)をこれまでの2倍の広さに増床し、高校受験ステップ白楽スクールをSTEPキッズ白楽教室(上述)の隣に移転、拡張しました。また、満員が常態化している大学受験横浜校についても、前期に続き増床することが決定しています。

生徒募集の状況は、各部門とも引き続き堅調です。当第2四半期末時点での期中平均生徒数は、前期比3.6%増となっています。

高校生部門では、中学部からの進級者を中心に、4月中旬時点で高校部15校舎中13校舎で高1生が満席となり、今期も好調なスタートとなっています。

当社では積極的な給与の引き上げを進めており、当期も2023年4月分給与より、定期昇給とは別にベースアップを含む給与水準の引き上げ(教師職:月額2万円、事務職:月額1万~1万5千円)を行います。これにより、教師職の初任給は27.5万円となります。給与水準の引き上げは前年に続くもので、2024年までの3年計画で実施している最中です。また2022年12月(パート社員は2023年1月)には「インフレ特別手当」(総額48百万円)を支給いたしました。

当社では、現在、今後の経営方針の大きな柱として、積極的な給与政策の推進と教育環境の整備を計画しており、その概要がまとめ次第、改めて開示していく予定です。

上記により、当第2四半期累計期間の売上高は7,520百万円(前年同四半期比10.0%増)、営業利益は2,285百万円(前年同四半期比13.2%増)、経常利益は2,311百万円(前年同四半期比11.9%増)、四半期純利益は1,592百万円(前年同四半期比11.8%増)となりました。なお、前事業年度より収益認識に関する会計基準等を適用した影響により、当第2四半期累計期間の売上高は312百万円増加し、営業利益、経常利益及び税引前四半期純利益においても、それぞれ同額の312百万円増加しています。

## (2) 財政状態に関する説明

### ① 当第2四半期末の資産、負債及び純資産の状況

#### (資産)

当第2四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末比1,167百万円増の28,740百万円となりました。

流動資産は、現金及び預金の増加等により前事業年度末比555百万円増の10,279百万円となりました。

固定資産は、投資有価証券の増加等により前事業年度末比612百万円増の18,460百万円となりました。

#### (負債)

当第2四半期会計期間末における負債は、前事業年度末比84百万円減の2,689百万円となりました。

流動負債は、未払法人税等の増加等はありませんでしたが、前受金の減少等により前事業年度末比61百万円減の1,979百万円となりました。

固定負債は、長期借入金の減少等により前事業年度末比22百万円減の710百万円となりました。

#### (純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産は、配当金の支払がありました。四半期純利益の計上等により、前事業年度末比1,251百万円増の26,050百万円となりました。

これにより、自己資本比率は前事業年度末に比べ、0.7ポイントアップの90.6%となりました。

### ② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

当第2四半期累計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は前年同四半期累計期間末に比べ711百万円増加(前年同期比8.1%増)し、9,439百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は1,582百万円(前年同期比21.1%増)となりました。

これは主に、税引前四半期純利益2,311百万円、減価償却費259百万円があった一方、前受金の減少額185百万円や、法人税等の支払額555百万円があったこと等によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は779百万円(前年同期比325.3%増)となりました。

これは主に、投資有価証券の取得による支出546百万円によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は454百万円(前年同期比41.7%減)となりました。

これは主に、長期借入金の返済による支出64百万円、配当金の支払額381百万円があったこと等によるものです。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年9月期の業績につきましては、2022年10月31日付け「2022年9月期決算短信〔日本基準〕(非連結)」に記載の予想に変更はありませんが、業績予想の修正が必要になった場合は、その段階で速やかにその旨開示いたします。

今後については、神奈川県において横浜市に次ぐ年少人口を抱えていながら未だ当社が本格的開校に着手したばかりの川崎市におけるネットワーク、そして横浜市の中でも鶴見区・中区・南区・金沢区等の東部地区・臨海地区・南部地区にスクールのネットワークを形成していくという課題があります。

開校余地が多く残っている川崎市と横浜市に戦略的に注力し、強力なスクールネットワークを中期的に形成していくために、横浜・川崎地区の公立進学校として評価の高い横浜翠嵐高校と多摩高校の合格者数をさらに伸ばし、当社が教務力で評価されるトップブランドとしてさらに強く認知されていく必要があります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年9月30日)	当第2四半期会計期間 (2023年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	9,354,061	9,701,996
売掛金	69,055	56,139
棚卸資産	35,298	112,744
その他	266,831	409,401
貸倒引当金	△434	△353
流動資産合計	9,724,811	10,279,928
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	7,550,582	7,645,699
土地	9,083,408	9,083,408
その他(純額)	214,170	190,901
有形固定資産合計	16,848,161	16,920,009
無形固定資産		
投資その他の資産	33,123	26,515
敷金及び保証金	613,259	631,407
その他	353,791	882,461
投資その他の資産合計	967,050	1,513,868
固定資産合計	17,848,336	18,460,394
資産合計	27,573,147	28,740,323
<b>負債の部</b>		
流動負債		
1年内返済予定の長期借入金	116,550	104,700
リース債務	17,722	15,759
未払金	119,176	173,055
未払法人税等	624,710	786,714
賞与引当金	95,120	22,025
その他	1,068,227	877,522
流動負債合計	2,041,507	1,979,776
固定負債		
長期借入金	245,300	192,950
リース債務	29,453	30,258
役員退職慰労引当金	129,800	129,800
資産除去債務	314,456	343,417
その他	14,059	13,668
固定負債合計	733,069	710,095
負債合計	2,774,576	2,689,872

(単位:千円)

	前事業年度 (2022年9月30日)	当第2四半期会計期間 (2023年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,778,330	1,778,330
資本剰余金	2,120,864	2,131,859
利益剰余金	20,999,308	22,210,153
自己株式	△101,037	△70,891
株主資本合計	24,797,465	26,049,451
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,105	999
評価・換算差額等合計	1,105	999
純資産合計	24,798,570	26,050,450
負債純資産合計	27,573,147	28,740,323



(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自2021年10月1日 至2022年3月31日)	当第2四半期累計期間 (自2022年10月1日 至2023年3月31日)
売上高	6,838,112	7,520,772
売上原価	4,399,057	4,807,206
売上総利益	2,439,055	2,713,565
販売費及び一般管理費	420,640	428,180
営業利益	2,018,414	2,285,384
営業外収益		
受取利息	12	16
助成金収入	14,049	12,495
受取家賃	52,717	54,186
その他	18,524	6,593
営業外収益合計	85,302	73,291
営業外費用		
支払利息	690	298
賃貸費用	37,004	37,877
その他	649	9,421
営業外費用合計	38,344	47,598
経常利益	2,065,373	2,311,078
税引前四半期純利益	2,065,373	2,311,078
法人税、住民税及び事業税	611,355	712,088
法人税等調整額	30,177	6,516
法人税等合計	641,533	718,604
四半期純利益	1,423,840	1,592,474

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自2021年10月1日 至2022年3月31日)	当第2四半期累計期間 (自2022年10月1日 至2023年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	2,065,373	2,311,078
減価償却費	241,543	259,086
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△150	△81
賞与引当金の増減額(△は減少)	△71,316	△73,095
受取利息及び受取配当金	△252	△422
支払利息	690	298
助成金収入	△14,049	△12,495
投資有価証券売却損益(△は益)	—	△2,616
売上債権の増減額(△は増加)	△90,127	△108,115
棚卸資産の増減額(△は増加)	△34,621	△77,446
未払金の増減額(△は減少)	△125,927	△21,577
前受金の増減額(△は減少)	164,193	△185,348
その他	△1,310	31,615
小計	2,134,046	2,120,879
利息及び配当金の受取額	249	321
利息の支払額	△657	△286
助成金の受取額	18,598	16,780
法人税等の支払額	△845,992	△555,383
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,306,244	1,582,312
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△162,739	△219,208
投資有価証券の取得による支出	—	△546,253
投資有価証券の売却による収入	—	4,764
貸付金の回収による収入	590	1,590
敷金及び保証金の差入による支出	△23,641	△21,549
敷金及び保証金の回収による収入	6,886	3,401
その他	△4,419	△2,503
投資活動によるキャッシュ・フロー	△183,324	△779,758
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入金の返済による支出	△359,498	△64,200
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△9,046	△9,268
自己株式の取得による支出	△75	—
配当金の支払額	△411,506	△381,390
財務活動によるキャッシュ・フロー	△780,125	△454,858
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	342,793	347,696
現金及び現金同等物の期首残高	8,386,058	9,092,197
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,728,852	9,439,893

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当社は、学習塾事業の単一セグメントであるため、記載を省略しています。

3. 補足情報

生産、受注及び販売の状況

(1) 生産実績及び受注実績

当社は、生徒に対して授業を行うことを業務としていますので、生産及び受注実績は、該当事項はありません。

(2) 販売実績

当社は学習塾事業の単一セグメントであるため、開示対象となるセグメントはありませんが、当第2四半期累計期間における販売実績を事業部門別に示すと、次のとおりです。

事業部門別	当第2四半期累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日) (千円)	前年同四半期比 (%)
小中学生部門	6,047,577	110.2
高校生部門	1,473,195	109.0
合 計	7,520,772	110.0